

## 教育委員会からのお知らせ

### 公民館特別事業 「みんなの願いはただひとつ」

#### 特別展 ～いっしょに考えてみませんか～



日時：8月5日（月）～16日（金）  
 会場：下諏訪総合文化センター 展示コーナー  
 内容：・広島原爆資料館から借用した絵の展示及びビデオの視聴  
 ・「町内中学生の平和教育体験研修（広島県）」の写真展示  
 ・「身近なところから考える地域防災」  
 下諏訪町のハザードマップや防災グッズの展示

### 町民総合文化祭 参加団体募集

参加申込用紙は文化センター内公民館窓口にあります。

	開催日	申込締切	対象者
作品展	10月4日（金） ～10月6日（日）	8月30日（金）	町民および町内の 各種団体・学校 ☆新規参加団体歓迎
芸能祭	10月6日（日）		
音楽祭	10月27日（日）	9月2日（月）	

〈問合せ・申込先〉下諏訪町公民館 28-0002

### 町民大学 下諏訪を学ぶ③

演題：噴き出す女のいのち ～平林たい子の文学～

講師：下諏訪文化財専門委員 市川 一雄

日時：8月25日（日） 午後1時30分～午後3時

会場：文化センター集会室

たい子は昭和2年プロレタリア文学の旗手として登場したが、後年、自らの思想を「原色の自由主義」と書き、あらゆる権力に抵抗した。20歳の時、女性を「抑圧された階級」ととらえ、解放を叫ぶ声をあげている。女性解放運動の真の先駆者である。意志的に自立して生き、「こういう女」などの連作小説で、噴き出す瑞々しい女の命を謳いあげた。（講師コメント）



平林たい子（昭和43年）  
平林たい子集（筑摩書房）より

### 社中 しもすわ「三角八丁」見所ガイド ～駅から99分のまち歩き散策コース～

#### ⑤旧伏見屋邸

江戸時代の民家の様子がよくわかる建物。江戸時代末期の元治元年（1864）、この地域の旧家の中村家が中山道沿いに伏見屋という屋号の商家として建てたもので、明治6年（1873）には下諏訪で最初の機械製糸が行われ、その後、製糸商や呉服、錦織物、雑貨などの商いが営まれました。

平成22年度に復元修理工事が行われ、昔の姿が蘇りました。今は休憩所（無料）になっていて、住民ボランティアの皆さんが“おもてなしの心”で訪れた人々をお迎えしています。



## 終戦記念日に思う ～戦争の悲惨さ・命の尊さ～



### 命

#### 失った命の意味

私には、六年前に十五才で天国へ旅立った娘がいます。先天性心疾患のため、生まれてからずっと検査や手術を何度も繰り返しながら、それでも明るく前向きに生きていました。そんな娘を覚悟しながら育てたつもりです。

が、死が現実となった時私の覚悟に意味は無く、日常の当たり前と思う生活が無くなり、その大切さと幸せの大きさに気づかされました。あの子は、この世でたった一人だけ。どんなに泣いても祈っても、失った命は戻すこともましてや買うこともできず、二度と会うことも抱きしめることもできない。それが死別だと改めて思い知りました。

武居北 原 貴子

命があるとチャンスがもらえます。病が良くなるかもしれない。失敗してもやり直すことができ、傷ついても再び笑顔を取り戻し、新しい出会いもある。そしてそれら全ては、生きていくからこそもらえる出来事です。娘が生きたいと願い闘う姿を見ていた母親として、健康で生んであげられなかった悔いと、日々の出来事を思い返しては後悔し、自分を責めながらも家族と支え合い、たくさんの人に助けられていることに感謝し、前向きに生きようと思う現在があります。



#### 亡くしてよい命などない

今年になり憲法見直しのニュースを目にします。もう何十年も前に終わったはずの戦争のために、今も他国との間に大小の摩擦が起きています。戦争は更なる不幸を生むものでしかない。で、武力ではなく話し合つて助け合うことができればよいのにと、思わずにはいられません。もし、今、戦争が起きたら、生活は激変し、失うものも多いことでしょう。娘との死別がこんなに辛いのに、健康で生んだはずの子どもや大切な人たちも、「国のため」という大義名分で命を捧げなければならぬと思ふと悲しくなります。自分の明日も見えず、大切な人や日本人だけでなく、他国の罪無き人の命も奪われる。誰の命も尊く、亡くしてよい命などないはずなのに。そして、それが戦争ならば、戦争は小さくなければいけません。

私は、この平和な時代に生まれたことを感謝したいです。けれど戦争がなくても、自分や他の人の願いとは関係なく、私た

ちはいつか必ず死と向き合います。今の時にも、病や大きな出来事に直面し、それでも自分から命を捨てないで、頑張つて闘いながら生きていく人がいます。誰もが生きていくための戦い方を間違えず、自分はもちろん、他人の命も慈しみ、生かされていることに感謝しなければ、この平和をくれる方々に申し訳ない気持ちになります。

#### 尊い命と多くの涙の上に

戦争当時、戦地へ出向いた多くの方々の思いと尊い命の上に、そしてその命を見送った方々の多くの涙の上に、今の平和があることを思い、心から哀悼の意を抱き、平和を願い続けていきたいです。

そして、こんな私の命を大切に思っている家族が存在することを思う時、命は自分一人のものではないことを思わされます。だからこそ、命の大切さを口にして、感謝しながら生きていければと思っています。